

【青森地域】

病院プロフィールシート（R5. 7月時点）

「地域医療構想の進め方について」平成30年2月7日付け医政地発0207第1号抜粋

①公立病院・・・新公立病院改革プラン

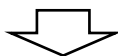
→民間医療機関との役割分担を踏まえ公立病院でなければ担えない分野へ重点化されているかどうかについて確認すること。

②公的医療機関等2025プラン対象医療機関・・・公的医療機関等2025プラン

→構想区域の医療需要や現状の病床稼働率等を踏まえ公的医療機関等2025プラン対象医療機関でなければ担えない分野へ重点化されているかどうかについて確認すること。

③その他医療機関・・・

→地域医療構想調整会議において、構想区域の診療実績や将来の医療需要の動向を踏まえて、遅くとも平成30年度末までに平成37（2025）年に向けた対応方針を協議すること。



地域医療構想を着実に進めるためには、各病院の機能や役割、今後の方向性等を関係者で共有することが必要であることから病院プロフィールシートの作成を提案（平成30年度）

※具体的対応方針の再検証に係る公立・公的医療機関（※1）の病院プロフィールシートを添付

（※1）平成29年度病床機能報告で、高度急性期又は急性期機能と報告した公立・公的医療機関

目次

1	青森県立中央病院・・・	1	12	芙蓉会病院・・・	35
2	青森市民病院・・・	5	13	村上病院・・・	37
3	浪岡病院・・・	9	14	村上新町病院・・・	39
4	平内中央病院・・・	13	15	浪打病院・・・	41
5	外ヶ浜中央病院・・・	17	16	あおり協立病院・・・	43
6	国立病院機構青森病院・・・	19	17	青森敬仁会病院・・・	45
7	松丘保養園・・・	23			
8	鷹揚郷腎研究所青森病院・・・	25			
9	青森慈恵会病院・・・	27			
10	青森厚生病院・・・	29			
11	青森新都市病院・・・	31			

病院名 青森県立中央病院

病床数(床)

令和5年度病床機能報告 現在 (R5.7.1)				将来 (R7.7.1)			
一般病床(A)	679	高度急性期(a)	564	一般病床(G)	679	高度急性期(g)	564
療養病床(B)	0	急性期(b)	115	療養病床(H)	0	急性期(h)	115
		回復期(c)	0			回復期(i)	0
		慢性期(d)	0			慢性期(j)	0
		休棟中	0			休棟予定(k)	0
		うち再開予定有(e)	0			(廃止予定)	0
		〃 無(f)	0			(介護保険施設等へ)	0
計(A+B)	679	計(a+b+c+d+e+f)	679	計(G+H)	679	計(g+h+i+j+k)	679

(病床機能報告の内容の考え方について)

- ・当院は、県全域を対象とした急性期医療、専門医療、政策医療を担っており、今後も全国レベルの高度・専門医療の確保が求められるため。
- ・当院では、看護職員の不足により令和5年9月1日から一部の病床を休止しているが、令和7年4月1日から病床の稼働再開を目指し、看護職員の確保に務めている。

平均在院日数 一般：12.0日

病床利用率 一般：72.2% 療養：-%

病床稼働率 一般：78.1% 療養：-%

診療科 合計31科

(内科、消化器内科、血液内科、内分泌内科、リウマチ科、緩和ケア内科、精神科、脳神経内科、小児科、循環器内科、外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、消化器外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科・頭頸部外科、リハビリテーション科、放射線科、腫瘍放射線科、歯科、歯科口腔外科、麻酔科、病理診断科、臨床検査科、形成外科、呼吸器内科、呼吸器外科)

主な紹介元医療機関 むつ総合病院、青森市民病院、青森新都市病院

主な紹介先医療機関 青森慈恵会病院、村上病院、むつ総合病院

当病院の現状（認定・指定の状況、主な患者像、地域の役割等）

【主な認定・指定の状況】

基幹災害拠点病院、救命救急センター、臨床研修指定病院、
エイズ治療中核拠点病院、総合周産期母子医療センター、
都道府県がん診療連携拠点病院、地域医療支援病院、
第一種感染症指定医療機関、原子力災害拠点病院、
難病診療連携拠点病院、へき地医療拠点病院、**小児在宅支援センター**

【主な患者像、地域の役割等】

・ **県内唯一の県立総合病院**として、がん、循環器、脳神経、糖尿病の各センターを設置し、高度で専門的な医療を提供しているほか、救急医療、周産期医療などの政策医療も行っている。

【医療連携について】

・ 急性期機能を担っていくため、回復期病院、在宅医療、介護施設等との連携体制の充実・強化を図っている。

・ **カンファレンスや医療機関情報の収集、活用について、デジタル化を進めている。**

・ 医師**及び医療従事者**の不足が著しい地域の自治体病院に医師等を派遣し、地域医療提供体制の維持・確保に努めている。

当病院の未来像（病床機能・病床数の見込み、施設への転換見込み、院舎建て替えの見込み、地域の役割等）

・ 今後も引き続き、県全域を対象とした急性期医療、専門医療、政策医療の提供を行っていきたいと考えている。

・ **令和4年2月に県立中央病院と青森市民病院のあり方に関して、「県と青森市の共同経営による新病院を新築整備する」ことを基本方針として表明し、この方針に基づき、共同経営・統合新病院基本構想・計画の策定に向けて検討を進めている。**

・ **統合新病院では、青森市民病院が担ってきた「青森地域保健医療圏における中核病院」、青森県立中央病院が担ってきた「県全域を対象とした高度、専門、政策医療の拠点病院」としての役割を継承していきたいと考えている。**

在宅医療への取組状況（現状及び今後の展望）

<退院支援>

- ・医療連携部の療養支援センターでは、専任の療養支援看護師や社会福祉士による「初診時支援」「入院前支援」「退院支援」を実施しており、当院での治療開始から地域医療機関への移行までの継続した療養支援に取り組んでいる。
- ・転院調整においては、地域の医療機関と定期的なWebカンファレンスを実施することで、調整期間の短縮と治療後の適切な時期に遅延なく後方施設へ移行できるように連携強化に努めている。さらに、転院調整機能の向上のため、地域連携バスのデジタル化を進めている。
- ・患者さんに求められる医療処置、ケア、支援体制等を含めた条件から療養先や紹介先を検索することができる県全域の医療連携情報の検索システム「DCSAねっと」を開発し、これを活用して県内の医療機関と連携、支援を行っている。当システムでは、長期連休中の医療機関の診療情報をWeb登録、検索できる機能を追加し、東青地域においては消防や救命センターでの活用を図る。

<訪問診療>

- ・特定の患者（神経難病や医療的ケア児など）への訪問診療を行っている。

<後方支援>

- ・在宅医療の後方支援は行っていないが、地域の医療機関を対象に、医療従事者の資質向上を図るためのスキルアップ研修会を開催している。

<看取り>

- ・県内の医療、介護関係者を対象にした看取りに関する研修会を開催している。

【病院プロフィールシート（具体的対応方針の再検討）】

病院名 青森県立中央病院

① 現在の地域における急性期機能や、将来の人口推移とそれに伴う医療需要の変化等の医療機関を取り巻く環境を踏まえた、2025年を見据えた自院の役割

※周囲に医療機関が無いため引き続き急性期機能を担う必要があること、周囲の医療機関と適切な機能分化・連携が図れていること、一部の診療領域に特化しており引き続き急性期病床が必要であること等 については、ここに記載

- ・県立中央病院は、県全域を対象とした高度急性期病院として、急性期医療、専門医療、政策医療を引き続き提供していく。
- ・また、県立唯一の総合病院として医師をはじめとする医療従事者の育成や、地域医療支援病院として地域内の医療機関等との連携を強化し、地域医療支援を充実していく。

② 分析対象領域ごとの医療機能の方向性(他の医療機関との機能統合や連携、機能縮小、機能廃止等)

国による分析結果

領域	A	B
がん		
心疾患		
脳卒中		
救急		
小児		
周産期		
災害		
へき地	●	
研修・派遣		

将来(R7.7.1)

※方向性	左記の理由
○	急性期医療、専門医療、政策医療を提供していく役割を担っていく必要があるため。
○	同上
○	同上
○	同上
○	同上
○	同上
○	同上
○	同上
○	同上
○	同上

※国提供資料(別添1)の●を転記

※○・・・引き続き当該領域を担っていく場合
 △・・・他の医療機関との機能統合や連携、機能縮小、機能廃止等
 ー・・・以前より当該機能を担っていない場合

③ ①②を踏まえた4機能別の病床数の変動

平成29年度病床機能報告(H29.7.1)			将来(R7.7.1)		
一般病床(A)	高度急性期(a)	564	一般病床(G)	高度急性期(g)	564
療養病床(B)	急性期(b)	115	療養病床(H)	急性期(h)	115
	回復期(c)			回復期(i)	
	慢性期(d)			慢性期(j)	
	休棟中	0		休棟予定(k)	0
	うち再開予定有(e)			(廃止予定)	
	" 無(f)			(介護保険施設等へ)	
計(A+B)	0	計(a+b+c+d+e+f) 679	計(G+H)	0	計(g+h+i+j+k) 679

【病院プロフィールシート】

※ 赤字は前回内容からの修正部分

病院名 青森市民病院

病床数(床)

令和5年度病床機能報告 現在 (R5.7.1)				将来 (R7.7.1)			
一般病床(A)	459	高度急性期(a)	23	一般病床(G)	459	高度急性期(g)	18
療養病床(B)	0	急性期(b)	387	療養病床(H)	0	急性期(h)	387
		回復期(c)	0			回復期(i)	0
		慢性期(d)	0			慢性期(j)	0
		休棟中	49			休棟予定(k)	0
		うち再開予定有(e)	49			(廃止予定)	54
		〃 無(f)	0			(介護保険施設等へ)	0
計(A+B)	459	計(a+b+c+d+e+f)	459	計(G+H)	459	計(g+h+i+j+k)	405

(病床機能報告の内容の考え方について)

当院は、おおよそ月187件の手術（うち全身麻酔の手術は94件程度）を実施している。また、救急告示病院として、二次輪番制に参加し、月236件程度、救急車の受入れを行い、救急医療を実施し、急性期病院としての機能を有しているところ。

これらのことから、当院は、ICU、HCU病棟以外の病棟は全て急性期病床として報告している。

また、新型コロナウイルス感染症患者を優先的に受け入れるため一般病棟を対応病棟へ転用しており、一部の病床（39床）を一時的に休床している。

病床利用率	一般：58.6%	療養：－%
平均在院日数	一般：11.6日	
病床稼働率	一般：64.1%	療養：－%

※コロナ転用病棟は稼働病床数で算出

診療科 合計20科

(糖尿病・内分泌内科、循環器内科、消化器内科、精神神経科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、歯科口腔外科、病理診断科、形成外科)

主な紹介元医療機関 青森県立中央病院、弘前大学医学部附属病院、むなかた皮膚科スキンケアクリニック

主な紹介先医療機関 青森県立中央病院、芙蓉会村上病院、弘前大学医学部附属病院

当病院の現状（認定・指定の状況、主な患者像、地域の役割等）

【主な認定・指定の状況】

災害拠点病院、救急告示病院、臨床研修指定病院、地域周産期医療協力施設、青森県がん診療連携推進病院、地域医療支援病院、難病指定医療機関、肝疾患に関する専門医療機関、指定自立支援医療機関、原子力災害医療協力機関、他

【主な患者像、地域の役割等】

- ・外科的、内科的治療の対象となる消化器系疾患、骨折等の整形疾患、狭心症等の循環器系疾患といった急性期患者が多い状況である。
- ・新型コロナウイルス感染症患者を優先的に受け入れるため一般病棟を対応病棟へ転用している。

【医療連携について】

- ・急性期機能を担っていくため、回復期病院、在宅医療、介護施設等との連携体制の充実・強化を図っている。特に、大腿骨骨折と脳卒中については、回復期病院との連携を目的とした地域連携パスを積極的に活用し、急性期治療が終了した患者を転院させる等の連携をしている。

当病院の未来像（病床機能・病床数の見込み、施設への転換見込み、院舎建て替えの見込み、地域の役割等）

- ・今後も引き続き、青森地域保健医療圏における中核病院として、急性期医療の提供を行っていきたいと考えている。
- ・許可病床数を適正規模に見直し、令和7年度中での405床へのダウンサイジングを予定している。
- ・令和4年2月に県立中央病院と青森市民病院のあり方に関して、「県と青森市の共同経営による統合病院を新築整備する」ことを基本方針として表明し、この方針に基づき、共同経営・統合新病院基本構想・計画の策定に向けて検討を進めている。
- ・統合新病院では青森市民病院が担ってきた「青森地域保健医療圏における中核病院」、青森県立中央病院が担ってきた「県全域を対象とした高度、専門、政策医療の拠点病院」としての役割を継承していきたいと考えている。

在宅医療への取組状況（現状及び今後の展望）

<退院支援>

地域医療連携室を中心に専任の看護師と社会福祉士などによる「入院前支援」「退院支援」を実施しており、当院での治療開始から地域医療機関への移行までの継続した支援に取り組んでいる。

転院調整においては、丁寧な聞き取りにより患者・家族の要望を把握し、治療後の適切な時期に、遅滞なく医療機関へ転院が図れるよう積極的に地域連携パスも活用しながら連携を図っている。今後はさらに、転院調整機能の向上を目指すため、地域連携パスのデジタル化を進めている。

<訪問診療>

現在、訪問診療は行っていないが、訪問診療や訪問看護の対応が可能な地域の医療機関等と逆紹介等で連携し、訪問診療や訪問門看護を提供していただいている。今後はより一層連携強化を推進していく。

<後方支援>

救急外来を中心に、地域の医療機関患者の病状が急変した際に、必要な受入れを行っている。

<看取り>

現在看取りは行っていないが、看取りの対応が可能な地域の医療機関等と転院等で連携し、看取りの対応していただいている。今後はより一層連携強化を推進していく。

【病院プロフィールシート（具体的対応方針の再検討）】

病院名 青森市民病院

① 現在の地域における急性期機能や、将来の人口推移とそれに伴う医療需要の変化等の医療機関を取り巻く環境を踏まえた、2025年を見据えた自院の役割

※周囲に医療機関が無いため引き続き急性期機能を担う必要があること、周囲の医療機関と適切な機能分化・連携が図れていること、一部の診療領域に特化しており引き続き急性期病床が必要であること等 については、ここに記載

- ・地域医療構想を踏まえ、医療需要に見合う病床規模の検討を行い、平成30年10月に、病床数を79床廃止し、538床から459床に見直しを行った。今後、許可病床数を適正規模に見直し、令和7年度中での405床へのダウンサイジングを予定している。
- ・地域医療ニーズに合わせた高度医療及び専門医療の提供については、地域中核病院として、種々の分野で確固たる役割を果たしており、引き続き、急性期機能を中心に地域医療支援病院としての役割を担っていく。
- ・救急告示病院として、病院群輪番制に参加し、月236件程度の救急車の受入れを行っており、青森地域の救急医療において一定の役割を担っていることから、引き続き救急医療を提供していく。

② 分析対象領域ごとの医療機能の方向性(他の医療機関との機能統合や連携、機能縮小、機能廃止等)

国による分析結果

領域	A	B
がん		
心疾患		
脳卒中		
救急		
小児		●
周産期	●	●
災害		
へき地	●	
研修・派遣		

将来(R7.7.1)

※方向性	左記の理由
○	青森県がん診療連携推進病院
○	専門的な治療を行う医師等が24時間患者を受け入れ、診療を行う体制を整えており、引き続き担っていく。
○	令和元年9月に一次脳卒中センターの認定を受け、24時間365日脳卒中患者を受け入れ、診療を行う体制を整えており、引き続き担っていく。
○	病院群輪番制に参加し、入院救急医療(二次救急医療)を担っており、地域の救急医療の維持・確保のため、引き続き担っていく。
○	小児地域医療センターとして、24時間体制で小児二次救急医療を担っており、地域の医療機関と連携し、小児医療の維持・確保のため、引き続き担っていく。
○	地域周産期医療協力施設の指定を受けており、地域の周産期医療の維持・確保のため、引き続き担っていく。
○	地域災害拠点病院
—	診療実績なし
○	基幹型・協力型臨床研修病院、各種専門医制度修練施設

※国提供資料(別添1)の●を転記

※○…引き続き当該領域を担っていく場合
△…他の医療機関との機能統合や連携、機能縮小、機能廃止等
—…以前より当該機能を担っていない場合

③ ①②を踏まえた4機能別の病床数の変動

平成29年度病床機能報告(H29.7.1)				将来(R7.7.1)			
一般病床(A)	538	高度急性期(a)	33	一般病床(G)	459	高度急性期(g)	18
療養病床(B)	0	急性期(b)	505	療養病床(H)	0	急性期(h)	387
		回復期(c)	0			回復期(i)	
		慢性期(d)	0			慢性期(j)	
		休棟中	64			休棟予定(k)	
		うち再開予定有(e)				(廃止予定)	
		” 無(f)				(介護保険施設等へ)	
計(A+B)	538	計(a+b+c+d+e+f)	538	計(G+H)	459	計(g+h+i+j+k)	405

【病院プロフィールシート】

※ 赤字は前回内容からの修正部分

病院名 青森市立浪岡病院

病床数(床)

令和5年度病床機能報告 現在 (R5.7.1)

一般病床(A)	35	高度急性期(a)	0
療養病床(B)	0	急性期(b)	35
		回復期(c)	0
		慢性期(d)	0
		休棟中	0
		うち再開予定有(e)	0
		〃 無(f)	0
計(A+B)	35	計(a+b+c+d+e+f)	35

将来 (R7.7.1)

一般病床(G)	35	高度急性期(g)	0
療養病床(H)	0	急性期(h)	35
		回復期(i)	0
		慢性期(j)	0
		休棟予定(k)	0
		(廃止予定)	0
		(介護保険施設等へ)	0
計(G+H)	35	計(g+h+i+j+k)	35

(病床機能報告の内容の考え方について)

- ・当院は、救急告示病院としての役割を担い、**年間200**件程度、救急車の受け入れを行っています。
- ・近年の病床利用率と今後の医療需要を踏まえ、平成30年10月1日から、許可病床92床（急性期）から35床（急性期）にダウンサイジングしました。

平均在院日数 一般： **17.5** 日

病床利用率 一般： **37.5** % 療養： - %
 病床稼働率 一般： **39.8** % 療養： - %

診療科 合計7科

(内科（心臓内科含む）、外科、整形外科、小児科、眼科、耳鼻いんこう科、精神神経科)

主な紹介元医療機関 弘前大学医学部附属病院、黒石病院、弘前総合医療センター

主な紹介先医療機関 弘前大学医学部附属病院、黒石病院、弘前総合医療センター

当病院の現状（認定・指定の状況、主な患者像、地域の役割等）

- ・平成30年10月に精神病床（107床）を廃止し、一般病床数を92床から35床に見直しました。また、建物・設備の老朽化に伴う建替事業を行い、令和3年5月31日に一般病床35床の規模で新病院を開院しました。
- ・新病院の医療機能については、従前の診療科を継続し、病床数を維持した上で、救急告示病院としての役割を担っているほか、在宅療養支援病院として、訪問診療・訪問看護など在宅医療サービスの提供に注力しています。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響による受診控えに対応するため、オンライン診療等を提供しています。
- ・市民の健康寿命延伸につなげるため、「モビリティを活用した予防サービス」、「IoTを活用したみまもりサービス」を実施し、「ヘルステックを核とした健康まちづくりプロジェクト」を推進しています。

当病院の未来像（病床機能・病床数の見込み、施設への転換見込み、院舎建て替えの見込み、地域の役割等）

- ・現在、病床機能報告では、病床の医療機能を全て急性期として報告しています。
- ・当病院は、浪岡地区唯一の救急告示病院であることから、引き続き救急医療を提供していくとともに、一般病床35床の規模を維持し、今後も地域住民の健康管理、疾病の治療や予防の基幹となる病院として、更には高齢者医療にも応えられる機能を維持し、地域に密着した浪岡地区のかかりつけ医としての役割を担っていきます。

在宅医療への取組状況（現状及び今後の展望）

<退院支援>

専任の看護師（社会福祉士の資格を有する看護師を含む）が退院支援に取り組んでおります。

<訪問診療>

令和4年度は、有料老人ホーム1施設（49人）、個人宅17人の患者に対し訪問診療を行いました。

<後方支援>

救急外来を中心に、地域の医療機関患者の病状が急変した際に、必要な受入れを行っています。

<看取り>

患家の求めに応じ、対応しています。

【病院プロフィールシート（具体的対応方針の再検討）】

病院名 青森市立浪岡病院

① 現在の地域における急性期機能や、将来の人口推移とそれに伴う医療需要の変化等の医療機関を取り巻く環境を踏まえた、2025年を見据えた自院の役割

※周囲に医療機関が無いため引き続き急性期機能を担う必要があること、周囲の医療機関と適切な機能分化・連携が図れていること、一部の診療領域に特化しており引き続き急性期病床が必要であること等 については、ここに記載

- ・地域医療構想を踏まえ、訪問診療の開始による在宅医療の推進に加え、医療需要に見合う病床規模の検討を行い、平成30年10月に、一般病床数を57床廃止し、92床から35床に見直しを行いました。また、精神神経科病床(107床)についても、入院患者の地域移行が完了したことから、同年10月に廃止しました。
- ・建物・設備の老朽化に伴う建替事業を行い、令和3年5月31日に一般病床数35床の規模で新病院を開院しました。
- ・在宅療養支援病院として、引き続き在宅医療の提供や在宅療養の支援を行い、地域包括ケアシステムの中核としての役割を担っていきます。
- ・浪岡地区唯一の救急告示病院として、年間200件程度、救急車の受入れを行っているほか、救急隊からの要請による長距離搬送となる場合の初期対応の役割も担っていることから、引き続き、救急医療を提供していきます。

② 分析対象領域ごとの医療機能の方向性(他の医療機関との機能統合や連携、機能縮小、機能廃止等)

国による分析結果

領域	A	B
がん	●	●
心疾患	●	●
脳卒中	●	●
救急	●	●
小児	●	●
周産期	●	●
災害	●	
へき地	●	
研修・派遣	●	

将来(R7.7.1)

※方向性	左記の理由
—	診療実績なし
—	診療実績なし
—	診療実績なし
○	浪岡地区唯一の救急告示病院として二次救急の役割を担っており、地域の救急医療の維持・確保のため、引き続き担っていきます。
—	診療実績なし
—	診療実績なし
—	当該機能なし
—	当該機能なし
—	当該機能なし

※国提供資料(別添1)の●を転記

※○・・・引き続き当該領域を担っていく場合
△・・・他の医療機関との機能統合や連携、機能縮小、機能廃止等
—・・・以前より当該機能を担っていない場合

③ ①②を踏まえた4機能別の病床数の変動

平成29年度病床機能報告(H29.7.1)			
一般病床(A)	92	高度急性期(a)	
療養病床(B)		急性期(b)	50
		回復期(c)	
		慢性期(d)	
		休棟中	42
		うち再開予定有(e)	
		” 無(f)	42
計(A+B)	92	計(a+b+c+d+e+f)	92

将来(R7.7.1)			
一般病床(G)	35	高度急性期(g)	
療養病床(H)		急性期(h)	35
		回復期(i)	
		慢性期(j)	
		休棟予定(k)	
		(廃止予定)	
		(介護保険施設等へ)	
計(G+H)	35	計(g+h+i+j+k)	35

【病院プロフィールシート】

※ 赤字は前回内容からの修正部分

病院名 平内町国民健康保険平内中央病院

病床数(床)

令和5年度病床機能報告 現在 (R5.7.1)				将来 (R7.7.1)			
一般病床(A)	48	高度急性期(a)	0	一般病床(G)	48	高度急性期(g)	0
療養病床(B)	48	急性期(b)	0	療養病床(H)	48	急性期(h)	0
		回復期(c)	48			回復期(i)	48
		慢性期(d)	48			慢性期(j)	48
		休棟中	0			休棟予定(k)	0
		うち再開予定有(e)	0			(廃止予定)	0
		〃 無(f)	0			(介護保険施設等へ)	0
計(A+B)	96	計(a+b+c+d+e+f)	96	計(G+H)	96	計(g+h+i+j+k)	96

(病床機能報告の内容の考え方について)

・当院の診療報酬上の機能と病床機能報告での内容は以下のとおりです。

西病棟 48床 うち、急性期一般入院料 15床 急性期
 地域包括ケア入院医療管理料 13床 回復期
 東病棟 48床 うち、療養病棟入院基本料 48床 慢性期

※1病棟中の機能で回復期の方が多いため、報告上は西病棟を回復期として申告

・地域の病院として、救急患者の受け入れと時間外対応、急性期を経た患者の受け入れ、長期の療養やリハビリテーションを要する患者の受け入れを行っています。

・将来的に町の人口は減少することが予想されますが、**高齢化率**の高い町であり、医療需要自体は2025年時点でも大きく減らないと考えており、現在の機能を維持する予定としております。

・特記事項として、下記の病床利用率及び稼働率には、**新型コロナウイルス感染症等の要因により、やむを得ず稼働病棟内の一部病床を一時的に休床とした影響(4~9月:4床を休床)**が含まれます。

平均在院日数	一般: 48.4日	病床利用率 一般: 74.5% 療養: 77.6%
	(2022年4月~2023年3月)	(2022年4月~2023年3月)
		病床稼働率 一般: 75.8% 療養: 78.0%
		(2022年4月~2023年3月)

診療科 合計11科

(内科、消化器内科、循環器内科、外科、整形外科、皮膚科、眼科、脳神経外科、小児科、休診(婦人科、麻酔科))

主な紹介元医療機関 青森県立中央病院、青森市民病院、ひきち内科クリニック

主な紹介先医療機関 青森県立中央病院、青森市民病院、ひきち内科クリニック

当病院の現状（認定・指定の状況、主な患者像、地域の役割等）

- ・当院の患者像として、高血圧や高脂血症、糖尿病といった生活習慣病のほか、腰痛や骨折といった外科的疾患が多いが、後期高齢者の患者が多いため、急性増悪や合併症のリスクがあり、結果的に急性期から慢性期までの病態が混在する形となっています。
- ・在宅療養支援病院として在宅医療にも力を入れており、**近年はコロナ禍や院内クラスター発生のため実施体制を一時的に縮小しておりますが、訪問診療はもちろんのこと、訪問看護、訪問リハビリテーション等のニーズに対応できるよう努めております。**
- ・開放型病院として、地域のクリニックとの連携も行っており、定期的な病診連携会議も開催しております。
- ・糖尿病教室等も行っており、予防医療にも力を入れております。
- ・平成24年度から休診していた小児科を令和3年4月から再開（外来）したことで、これまで以上に子育て世代が安心して暮らせるような体制を整えております。
- ・新型コロナウイルス感染症協力医療機関として、かぜ症状患者への対応や保健所からの依頼による検体採取等のほか、新型コロナウイルスワクチン接種への対応等も実施しております。

当病院の未来像（病床機能・病床数の見込み、施設への転換見込み、院舎建て替えの見込み、地域の役割等）

- ・現在の病床数や機能については、平内町での当院の役割を考慮して、平成26年頃より計画的に進めてきた結果であり、完成とは言わないまでも当時の急性期病院としての側面よりも、サブアキュート・ポストアキュートとしての側面を強化しました。その結果、病床利用率も平成29年度には91.0%となり、その後は80%前後で推移していることから、町の医療需要に応える形で整備されており、現時点での病床規模の見直しは考えておりません。
- ・今後の未来像としては、一般病棟と療養病棟の間での病床数の変更は想定されますが、概ね現状と同じ機能を維持し、医療の提供を実施していく予定です。
- ・オンライン診療の体制を整備し、地形的に集落が点在する当町において、今後の在宅患者への対応や新型コロナウイルス感染症への感染リスクも考慮しながら、限られた医療資源を最大限活用できるようにしております。

在宅医療への取組状況（現状及び今後の展望）

<退院支援>

病棟の看護師及びコメディカルスタッフと社会福祉士がチームで、ご家族・ご本人の希望を確認し、計画的に退院支援を行っております。

<訪問診療>

現在は平内町内に限定し、自宅や有料老人ホーム等の患者に訪問診療を行っております。徐々に利用される患者が増えています。

<後方支援>

町内のクリニックをかかりつけ医とする患者の病状が急変した際に、当院で受け入れできるよう、常日頃から連携をとっております。

<看取り>

町内のクリニックと連携しながら、患者家族の希望に添うよう積極的に対応しております。

【病院プロフィールシート（具体的対応方針の再検討）】

病院名 平内町国民健康保険平内中央病院

① 現在の地域における急性期機能や、将来の人口推移とそれに伴う医療需要の変化等の医療機関を取り巻く環境を踏まえた、2025年を見据えた自院の役割

※周囲に医療機関が無いため引き続き急性期機能を担う必要があること、周囲の医療機関と適切な機能分化・連携が図れていること、一部の診療領域に特化しており引き続き急性期病床が必要であること等 については、ここに記載

- ・平成29年度分の病床機能報告について、急性期から回復期へ修正済みです。
- ・病床が80～90%前後の水準で稼働していることから、現時点で病床規模の見直しは考えていませんが、今後、稼働率等を踏まえた適切な病床規模の見直しを検討していきます。
- ・地域の身近な病院であることを目指し、開放型病院として開業の先生方との病診連携を担うとともに、地域で不足している在宅医療に取り組み、看取りも併せて行うことにより、青森地域医療圏での後方支援病院としての役割を果たしていきます。
- ・救急告示病院として、月約36件程度（2022年度実績ベース：救急隊搬送約8.5件、その他約27.5件）、救急車等の受入れを行っており、近隣に救急病院がないことから、引き続き救急医療を提供していきます。

② 分析対象領域ごとの医療機能の方向性(他の医療機関との機能統合や連携、機能縮小、機能廃止等)

国による分析結果			将来(R7.7.1)	
領域	A	B	※方向性	左記の理由
がん	●	●	-	
心疾患	●	●	-	
脳卒中	●	●	-	
救急	●		○	近隣(車で20分以内)に救急病院がないため、引き続き平内地区の救急医療を担います
小児	●	●	-	
周産期	●	●	-	
災害	●		-	
へき地	●		-	
研修・派遣	●		-	

※国提供資料(別添1)の●を転記

※○…引き続き当該領域を担っていく場合
 △…他の医療機関との機能統合や連携、機能縮小、機能廃止等
 -…以前より当該機能を担っていない場合

③ ①②を踏まえた4機能別の病床数の変動

平成29年度病床機能報告 (H29.7.1)				将来 (R7.7.1)			
一般病床(A)	40	高度急性期(a)		一般病床(G)	48	高度急性期(g)	
療養病床(B)	56	急性期(b)	0	療養病床(H)	48	急性期(h)	0
		回復期(c)	40			回復期(i)	48
		慢性期(d)	56			慢性期(j)	48
		休棟中	0			休棟予定(k)	0
		うち再開予定有(e)				(廃止予定)	
		" 無(f)				(介護保険施設等へ)	
計(A+B)	96	計(a+b+c+d+e+f)	96	計(G+H)	96	計(g+h+i+j+k)	96

【病院プロフィールシート】

※ 赤字は前回内容からの修正部分

病院名 外ヶ浜町国民健康保険外ヶ浜中央病院

病床数(床)

令和5年度病床機能報告 現在 (R5.7.1)				将来 (R7.7.1)			
一般病床(A)	44	高度急性期(a)	0	一般病床(G)	44	高度急性期(g)	0
療養病床(B)	0	急性期(b)	0	療養病床(H)	0	急性期(h)	0
		回復期(c)	28			回復期(i)	28
		慢性期(d)	0			慢性期(j)	0
		休棟中	16			休棟予定(k)	16
		うち再開予定有(e)	0			(廃止予定)	0
		〃 無(f)	0			(介護保険施設等へ)	0
計(A+B)	44	計(a+b+c+d+e+f)	28	計(G+H)	44	計(g+h+i+j+k)	44

(病床機能報告の内容の考え方について)

- ・当院は、現在、1病棟（一般病棟15対1 地域一般入院料3）を回復期として報告しています。
- ・これまで救急告示病院として二次救急医療を担い、月15件程度の救急搬送患者を受入れ、救急医療を提供してきましたが、令和5年度から常勤勤務医が半減したことにより、救急医療提供体制を維持することが困難となり、やむを得ず救急医療を休止し、16床を休床させています。将来推計人口を基にした令和7年の1日あたりの入院患者見込数は37.2人と推計しており、病床稼働率を85%に設定した場合、許可病床数は現状の44床が必要とされることから令和7年までは44床を維持するとともに救急医療提供の再開に向け、基幹病院等に対して医師派遣を依頼し、休床数の削減に向け、努めていきます。

平均在院日数 一般： 32.8 日

病床利用率 一般： 64.3 % 療養： - %

病床稼働率 一般： 66.3 % 療養： - %

診療科 合計5科

(内科、小児科、外科、整形外科、リハビリテーション科)

主な紹介元医療機関 今別診療所、三厩診療所、田澤内科、かにたクリニック

主な紹介先医療機関 青森県立中央病院、青森市民病院、青森新都市病院

当病院の現状（認定・指定の状況、主な患者像、地域の役割等）

- ・当院は蓬田村以北唯一のリハビリ機関として地域連携パス（骨折・脳卒中）等の回復期の役割を担い、急性期からの転院を積極的に受入れ、維持期施設へのスムーズな移行支援を行っている。
- ・当院診療圏域は高齢化率が非常に高く、認知症等で在宅ケアが困難な症例等、医療提供だけでは解決できないケースが多々あることから、当院は地域の関係機関等との連携を密にし、地域包括ケアシステム構築の中心的役割を担っています。
- ・地域の身近な病院であることを目指し、開業医との病診連携、より高度な医療機能を有する病院との病・病連携、更には医療圏域内各施設（特養、グループホーム等）での定期的な往診も行うなど介護施設等との連携に力を入れています。

当病院の未来像（病床機能・病床数の見込み、施設への転換見込み、院舎建て替えの見込み、地域の役割等）

- ・現在、病床機能報告では病床の医療機能を全て回復期として報告していますが、将来の回復期医療需要の増加見込みを踏まえ、今後も維持継続するとともに、救急医療提供が再開された場合は一般病床の一部を地域包括ケア病床へ転換することを検討しています。
- ・人口減少による患者数の逡減が見込まれることから、今後の患者数の動向や救急医療の再開状況等を踏まえ、病床規模の見直しを行います。
- ・現病院施設は老朽化が著しく、狭隘なトイレ、廊下及び診察室や過去数回行った増改築により生じた非効率な院内動線が運用面や患者サービス等に支障を来しているほか、スプリンクラーの設置が義務化されたこと等も踏まえ、必要に応じた改修事業を計画的に実施することとします。

在宅医療への取組状況（現状及び今後の展望）

<退院支援>

専任の退院支援担当者（社会福祉士、保健師）が連携し、ご本人・ご家族の希望に添った退院計画を立て、退院支援に取り組んでいます。

<訪問診療>

併設する老健を含め、近隣町村10施設（約300人）の定期的な往・回診を継続するほか、新たに24時間365日体制の訪問看護事業を実施し、在宅医療の充実に努めています。

<後方支援>

当院が在宅医療の提供を行っている患者のほかに近隣町村の医療機関からの紹介患者の受入れを積極的に行っています。

<看取り>

患者の求めに応じ、積極的に対応していきたいと考えています。

【病院プロフィールシート】

※ 赤字は前回内容からの修正部分

病院名 独立行政法人国立病院機構青森病院

病床数(床)

令和 5 年度病床機能報告 現在 (R5.7.1)				将来 (R7.7.1)			
一般病床(A)	300	高度急性期(a)	0	一般病床(G)	300	高度急性期(g)	0
療養病床(B)	0	急性期(b)	0	療養病床(H)	0	急性期(h)	0
		回復期(c)	0			回復期(i)	0
		慢性期(d)	300			慢性期(j)	300
		休棟中	0			休棟予定(k)	0
		うち再開予定有(e)	0			(廃止予定)	0
		// 無(f)	0			(介護保険施設等へ)	0
計(A+B)	300	計(a+b+c+d+e+f)	300	計(G+H)	300	計(g+h+i+j+k)	300

(病床機能報告の内容の考え方について)

- ・当院は現在、7 個病棟（いずれも障害者施設等 7 対 1 入院基本料）の全てを慢性期として報告しています。
- ・病床が高い水準で稼働していることから、現時点での病床規模の見直しは考えておりません。
- ・政策医療中心のセーフティネット分野における専門的医療を担い、一般診療に関しては、地域の他施設と連携して関わっていかうと考えています。

平均在院日数 一般：302.8日

病床利用率 一般：92.6% 療養：-%

病床稼働率 一般：92.9% 療養：-%

診療科 合計 16 科

(内科、精神科、脳神経内科、呼吸器内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、歯科口腔外科、麻酔科)

主な紹介元医療機関 大竹整形外科、弘前大学医学部附属病院、青森市立浪岡病院

主な紹介先医療機関 大竹整形外科、弘前大学医学部附属病院、青森市立浪岡病院

当病院の現状（認定・指定の状況、主な患者像、地域の役割等）

- ・重症心身障害、筋ジストロフィー、神経難病、結核の政策医療を担っています。
- ・神経系、小児系の慢性期の医療機能を担い、医療圏を越えて地域のニーズに応えています。
- ・神経難病に関しては、県難病医療連絡協議会における難病医療協力病院の一つとして、また筋ジストロフィーの専門施設として、人工呼吸器管理を含めた慢性期診療にあたっています。
- ・小児医療においては、重症心身障害児（者）の長期入院を受け入れ、医療機関として、医療型短期入所、日中一時支援等の福祉サービス機能を担い、小児発達外来等にも関わっています。
- ・障害者医療を総合的に実施するため、脳神経外科、放射線科等の医療機能を担っています。

当病院の未来像（病床機能・病床数の見込み、施設への転換見込み、院舎建て替えの見込み、地域の役割等）

- ・地域にとってセーフティーネット分野での不可欠な医療機関としての機能を維持します。
- ・筋ジストロフィーにおいては、青森県における専門医療機関としての機能を維持します。
- ・神経難病においては、青森県における難病医療協力病院としての機能を維持します。
- ・重症心身障害においては、県内3施設のうち津軽地方（青森地域、津軽地域、西北五地域）における唯一の医療型障害児入所施設としての機能を維持するとともに、地域のニーズに応じた短期入所、通所事業等の障害福祉サービスの提供を継続します。
- ・結核においては、結核診療はもちろんのこと、今後、新興感染症（呼吸器感染症）に関する有事の際にも柔軟に対応可能で、慢性閉塞性肺疾患等の増悪期治療等にも関わることのできるような診療体制を構築すべく、一般病床とのユニット化の可能性も含めて、青森県医療審議会や医師会に相談しながら、当院の結核病棟運営の現状と将来構想の方向性について検討しているところです。当院呼吸器内科医師に関しては、結核+ α の診療を考慮に入れて、弘前大学医学部呼吸器内科学講座教授から内諾を得ており、結核診療の継続と病床ユニット化の可能性に関しては、県等医師会長にも説明にあがっています。しかし、40年以上経過した結核病棟の改修が必要な状況にあります。今後においても関係機関と協議を行いながら、青森県における結核指定医療機関としての診療機能を維持できるよう進めていきたいと考えています。

在宅医療への取組状況（現状及び今後の展望）

<退院支援>

専従の社会福祉士と専任の看護師、病棟・外来看護師等が連携し、ご本人・ご家族の希望に添った退院支援計画を立て地域の関係機関との連携を図りながら退院支援を実施しています。

<訪問診療>

当院に外来通院しながら地域の医療機関で往診等をしていただいている方の状態が悪化した際に、必要な受け入れを行っているため、訪問診療は行っていません。

<後方支援>

在宅の患者様が急変し他の医療機関へ搬送され治療が落ち着いた際に、リハビリテーションまたは在宅調整、長期療養等の目的での転入院の受け入れを行っています。

<看取り>

当院に外来通院しながら地域の医療機関で往診等をしていただいている方の状態が悪化した際に、必要な受け入れを行っているため、在宅における看取りは行っていません。

<今後の展望>

重症心身障害において既に行っている通園事業を継続しつつ、筋ジストロフィー及び神経難病において在宅医療に関わっていく取り組みにつき検討しているところです。

【病院プロフィールシート】

※ 赤字は前回内容からの修正部分

病院名 国立療養所松丘保養園

病床数(床)

令和5年度病床機能報告 現在 (R5.7.1)

将来 (R7.7.1)

一般病床(A)	5	高度急性期(a)	0
療養病床(B)	0	急性期(b)	0
		回復期(c)	0
		慢性期(d)	5
		休棟中	0
		うち再開予定有(e)	0
		〃 無(f)	0
計(A+B)	5	計(a+b+c+d+e+f)	5

一般病床(G)	5	高度急性期(g)	0
療養病床(H)	0	急性期(h)	0
		回復期(i)	0
		慢性期(j)	5
		休棟予定(k)	0
		(廃止予定)	0
		(介護保険施設等へ)	0
計(G+H)	5	計(g+h+i+j+k)	5

(病床機能報告の内容の考え方について)

・当園は、現在、1病棟（いずれも一般病棟入院基本料（特別入院基本料））全てを慢性期として報告しています。

平均在院日数 一般：0日

病床利用率 一般： 0.0% 療養：-%

病床稼働率 一般： 0.0% 療養：-%

診療科 合計6科

(内科、外科、眼科、耳鼻科、皮膚科、歯科)

主な紹介元医療機関 無

主な紹介先医療機関 無

当病院の現状（認定・指定の状況、主な患者像、地域の役割等）

・当園は、従来よりハンセン病医療を担ってきており、治療により治癒した後も末梢神経障害、視覚障害などのハンセン病後遺症による機能障害に加えて、加齢による全身的合併症を持つ高齢の患者に対する医療を提供しているため、積極的な患者の受け入れは行っていません。

当病院の未来像（病床機能・病床数の見込み、施設への転換見込み、院舎建て替えの見込み、地域の役割等）

- ・現在、病床機能報告では、病床の医療機能を全て慢性期として報告しています。
- ・当園の特殊性も鑑み、現時点での病床規模の見直しは考えていません。

在宅医療への取組状況（現状及び今後の展望）

<退院支援>

医師・看護師と医療社会専門員などが連携し、的確な退院支援に取り組んでいます。

<訪問診療>

行っていません。

<後方支援>

行っていません。

<看取り>

患者の求めに応じ、積極的に対応していきたいと考えています。

【病院プロフィールシート】

※ 赤字は前回内容からの修正部分

病院名 公益財団法人 鷹揚郷腎研究所青森病院

病床数(床)

令和5年度病床機能報告 現在 (R5.7.1)				将来 (R7.7.1)			
一般病床(A)	45	高度急性期(a)	0	一般病床(G)	45	高度急性期(g)	0
療養病床(B)	0	急性期(b)	0	療養病床(H)	0	急性期(h)	0
		回復期(c)	0			回復期(i)	0
		慢性期(d)	45			慢性期(j)	45
		休棟中	0			休棟予定(k)	0
		うち再開予定有(e)	0			(廃止予定)	0
		〃 無(f)	0			(介護保険施設等へ)	0
計(A+B)	45	計(a+b+c+d+e+f)	45	計(G+H)	45	計(g+h+i+j+k)	45

(病床機能報告の内容の考え方について)

- ・当院は、現在、1病棟（急性期一般入院料4）全てを慢性期として報告しております。
- ・年間の手術件数は1,803件で内、全身麻酔の手術は8件です。
- ・当院は主に透析治療、腎・尿管結石破碎治療、その他泌尿器科の治療を行っております。

平均在院日数 一般：15.1日

病床利用率 一般：70.3% 療養：-%

病床稼働率 一般：75.1% 療養：-%

診療科 合計4科

(泌尿器科、麻酔科、リハビリテーション科、歯科)

主な紹介元医療機関 青森県立中央病院、さわだクリニック、**新都市病院**

主な紹介先医療機関 青森県立中央病院、青森市民病院、**新都市病院**

当病院の現状（認定・指定の状況、主な患者像、地域の役割等）

- ・（一社）日本泌尿器科学会の泌尿器科専門医教育施設（拠点教育施設）に認定されております。
- ・当院は、泌尿器科専門病院として腎・尿管結石破碎治療や前立腺肥大症の治療などに対し内視鏡治療を行っております。また、透析治療を受けることのできない患者さんが発生しないよう、透析ベッド、透析機器等の整備を適宜行い、合併症等で重症化した透析患者さんや高齢により手厚い治療や看護が必要な透析患者さんを積極的に受け入れております。
- ・地域の身近な病院であることを目指し、開業の先生方との病診連携、より高度な医療機器を有する病院との病病連携、更には介護施設との連携に力を入れております。
- ・今後、PHRネットワークにて情報提供機関と連携し、入院でリハビリが必要な透析患者さんの受入れを行っていきます。

当病院の未来像（病床機能・病床数の見込み、施設への転換見込み、院舎建て替えの見込み、地域の役割等）

- ・現在、病床機能報告では、病床の医療機能を全て慢性期として報告していますが、急性期・回復期相当の患者さんも相当数入院しており、また、将来の慢性期の医療需要の増加を踏まえ、病床が更に高い水準で稼働していくことを見込んでいることから、現時点での病床規模の見直しは考えておりません。

在宅医療への取組状況（現状及び今後の展望）

<退院支援>

医師、看護師、理学療法士、ケースワーカーなどが連携し、ご家族の希望に沿った退院計画を立て、的確な退院支援に取り組んでおります。

<訪問診療>

現在は実施しておりません。

<後方支援>

他のクリニックなどが担当する患者さんの病状が急変した際に、必要な受け入れを行っております。

<看取り>

現在は実施しておりません。

【病院プロフィールシート】

※ 赤字は前回内容からの修正部分

病院名 社団法人慈恵会 青森慈恵会病院

病床数(床)

令和5年度病床機能報告 現在 (R5.7.1)				将来 (R7.7.1)			
一般病床(A)	154	高度急性期(a)	0	一般病床(G)	106	高度急性期(g)	0
療養病床(B)	96	急性期(b)	106	療養病床(H)	144	急性期(h)	106
		回復期(c)	144			回復期(i)	144
		慢性期(d)	0			慢性期(j)	0
		休棟中	0			休棟予定(k)	0
		うち再開予定有(e)	0			(廃止予定)	0
		〃 無(f)	0			(介護保険施設等へ)	0
計(A+B)	250	計(a+b+c+d+e+f)	250	計(G+H)	250	計(g+h+i+j+k)	250

(病床機能報告の内容の考え方について)

当院のベッド数332床からなり、その病床区分は以下のようになっています。

- 一般病床154床：84床 DPC対象病床（急性期一般入院料4 10対1）
22床 緩和ケア病棟（政策医療にかかる病床転換）
48床 回復期リハ病棟（政策医療にかかる病床転換）
- 療養病床 96床：48床 回復期リハ病棟
48床 地域包括ケア病棟
- 精神病床82床：82床 認知症治療病棟

入院患者は月平均130～140名で、**今年度は紹介率42%、逆紹介率15%（算出期間R4.7～R5.3月）**となっています。また救急告示病院として、2次救急を担い、月平均6件程度、救急車の受け入れを行っており、急性期から慢性期まで、患者さんの様々な病状、病期に柔軟に対応できるように、ケアミックス型病床群の形態を運営しています。

今後は、より充実した地域包括ケア構築のため、高度急性期病院や他の医療・介護機関との連携をさらに強化しながら、現行のケアミックス体制の質向上に努めていきたいと考えています。

平均在院日数 一般：10対1	21日	病床利用率 一般：56.4%	療養：95.6%
平均在院日数 一般：緩和ケア	8.7日	病床利用率 一般：26%	(緩和ケア)
		病床稼働率 一般：57.6%	療養：98.1%
		病床稼働率 一般：27.3%	(緩和ケア)

診療科 合計14科

内科、外科、整形外科、循環器科、呼吸器科、消化器科、泌尿器科、リハビリテーション科
精神科、漢方内科、皮膚科、麻酔科、アレルギー科、リウマチ科 **脳神経内科**

主な紹介元医療機関 青森県立中央病院、青森市民病院、青森整形外科クリニック

主な紹介先医療機関 青森県立中央病院、青森市民病院、青森整形外科クリニック

当病院の現状（認定・指定の状況、主な患者像、地域の役割等）

各病棟ごとの状況について

- ①急性期 平均在院日数21日。手術は、整形外科専門医7名、麻酔科医4名の体制で、整形外科手術を中心に全身麻酔手術を月平均40～50件を実施。内科混合病棟では、誤嚥性肺炎や心不全、脳卒中といった疾病を対象に、急性期リハ、NSTなど積極的に行い、高齢者の在宅復帰向上に努めています。
- ②療養病床の実績（今年度、算出期間R5.1～R5.6）は回復期全体で、在宅復帰率71%、重症者割合45.3%、重症患者改善割合31.3%、FIM実績49、地域包括病棟では、在宅復帰率78%、重症患者割合12.4%と、在宅復帰率向上に努めています。
- ③認知症病棟を中心に、ユマニチュード手法を導入し、身体拘束ゼロを目標に各病棟で認知症ケアを展開しています。
- ④緩和ケア病床（22床）及び回復期リハビリテーション病床（48床）は、令和3年5月より政策医療にかかる病床に転換しています。

当病院の未来像（病床機能・病床数の見込み、施設への転換見込み、院舎建て替えの見込み、地域の役割等）

- ①当面は現状の病床数、機能で運営する予定ですが、状況に応じて変更する可能性はありと考えています。
- ②当院の役割は、高度急性期病院や他医療機関で急性期治療を終えた患者さん(post acute)の受け入れと、**整形外科を中心とした地域住民の医療ニーズにも対応しています**。また患者さんが退院後も安心して暮らせるよう、他の医療機関や介護施設等と積極的に連携し、その橋渡し役として重要な役割があると考えています。

在宅医療への取組状況（現状及び今後の展望）

<退院支援>

専任の社会福祉士10名（うち精神保健福祉士3名）が、地域の介護施設等との連携を図り、ご家族の要望に沿った退院支援に取り組んでいます。

<訪問診療>

有料老人ホーム入居者60名を実施しています。

<後方支援>

介護施設等の急変した患者に対し、必要な診療受入れ（外来・入院）を行っています。

<看取り>

院内、関連施設において、終末期の高齢患者のACPの普及に取り組んでいます。

【病院プロフィールシート】

※ 赤字は前回内容からの修正部分

病院名 一般財団法人双仁会 青森厚生病院

病床数(床)

令和5年度病床機能報告 現在 (R5.7.1)				将来 (R7.7.1)			
一般病床(A)	86	高度急性期(a)	0	一般病床(G)	86	高度急性期(g)	0
療養病床(B)	113	急性期(b)	86	療養病床(H)	113	急性期(h)	86
		回復期(c)	58			回復期(i)	58
		慢性期(d)	55			慢性期(j)	55
		休棟中	0			休棟予定(k)	0
		うち再開予定有(e)	0			(廃止予定)	0
		〃 無(f)	0			(介護保険施設等へ)	0
計(A+B)	199	計(a+b+c+d+e+f)	199	計(G+H)	199	計(g+h+i+j+k)	199

(病床機能報告の内容の考え方について)

- ・当院は、令和5年3月より、急性期病棟の病床数を削減しました。また休止病棟の病床数も削減し、病床数全体を199床として運営しております。
- ・青森市西地区及び東津軽郡等の地域を視野に入れ、急性期・回復期・慢性期・在宅を一体的に医療サポートできるように行っています。
- ・救急告示病院として、救急車年間242件 (R4.4~R5.3) の受入実績となっています。

平均在院日数 一般：20.9日

病床利用率 一般：67.6% 療養：77.9%

病床稼働率 一般：71.2% 療養：79.3%

診療科 合計10科

(内科、循環器内科、呼吸器内科、外科、消化器外科、心臓血管外科、整形外科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科)

主な紹介元医療機関 県立中央病院、青森市民病院、青森新都市病院

主な紹介先医療機関 県立中央病院、青森市民病院、青森新都市病院

当病院の現状（認定・指定の状況、主な患者像、地域の役割等）

・当院は、呼吸器内科医師が常勤で2名在籍しており、肺癌やCOPDを含む呼吸器疾患全般・人工呼吸器管理、外科では胆石・ヘルニアの腹腔鏡下手術や消化器癌や乳癌の手術及び化学療法を行っております。

・新たな取組として、緩和ケア外来も実施し、青森県でのがん疾患に対するケアを行ってまいります。

・訪問診療・みなし訪問看護を実施し、自宅・在宅施設の医療支援を行っています。

・訪問リハビリも新たな取組として実施しております。

当病院の未来像（病床機能・病床数の見込み、施設への転換見込み、院舎建て替えの見込み、地域の役割等）

・地域との交流も深め、地域にとっての病院づくりを目指していきたくと思います。

・病床機能は現状と変わらずいきます。

・在宅への機能を充実させるため、R5年5月より、訪問リハビリの提供も行っております。

在宅医療への取組状況（現状及び今後の展望）

<退院支援>

社会福祉士4名、看護師1名体制で退院支援に取り組んでいます。ご家族のご希望を組みながら在宅や施設、病院等へ退院支援をしております。

<訪問診療>

青森市西地区を中心に介護施設や自宅の患者に訪問しています。

<後方支援>

当院で訪問診療・訪問看護を行っている患者の他、協力医療機関になっている施設の患者の後方支援を行っています。

<看取り>

緩和医療及び、医療管理をしながらの療養を要する等患者の看取りを行っています。

【病院プロフィールシート】

※ 赤字は前回内容からの修正部分

病院名 医療法人雄心会 青森新都市病院

病床数(床)

令和5年度病床機能報告 現在 (R5.7.1)				将来 (R7.7.1)			
一般病床(A)	191	高度急性期(a)	8	一般病床(G)	191	高度急性期(g)	8
療養病床(B)	0	急性期(b)	138	療養病床(H)	0	急性期(h)	138
		回復期(c)	45			回復期(i)	45
		慢性期(d)	0			慢性期(j)	0
		休棟中	0			休棟予定(k)	0
		うち再開予定有(e)	0			(廃止予定)	0
		〃 無(f)	0			(介護保険施設等へ)	0
計(A+B)	191	計(a+b+c+d+e+f)	191	計(G+H)	191	計(g+h+i+j+k)	191

(病床機能報告の内容の考え方について)

・当院は、脳梗塞、くも膜下出血及び脳出血などの脳血管疾患、消化管疾患や重症肺炎などの重症患者、全身麻酔下での大手術後の術後管理を要する患者に対し、高度な医療を提供する病床（1病棟8床（ハイケアユニット入院医療管理料1））を高度急性期機能として、その他脳卒中、外傷、脊椎脊髄疾患、がん及び消化器系疾患などの急性期の患者に対し、医療を提供する病床（3病棟138床（急性期一般入院基本料2））を急性期機能として、急性期を経過した脳血管疾患又は大腿骨頸部骨折等の患者に対し、機能回復やADLの向上を目的とした集中的リハビリテーションを提供する病床（1病棟45床（回復期リハビリテーション病棟入院料1））を回復期機能として報告しています。

・なお、地域の医療需要等を見極めた結果、平成29年7月に1病棟45床を急性期機能から回復期機能に転換しました。

・2年後の2025年も当院が担う医療機能に変更がないものとして報告する予定です。

平均在院日数 一般：17.7日

病床利用率 一般：65.6% 療養：-%

病床稼働率 一般：69.5% 療養：-%

※新型コロナウイルス感染症患者受入病棟(即応病床:15床・休止病床:30床)を含む。

診療科 合計 17科

(脳神経外科、形成外科、整形外科、消化器外科、乳腺外科、甲状腺外科、外科、消化器内科、循環器内科、脳神経内科、内科、総合診療科(院内標榜)、泌尿器科、リハビリテーション科、放射線腫瘍科、放射線科、麻酔科、歯科口腔外科)

主な紹介元医療機関 青森市民病院、ヤマモト皮膚科、中野脳神経外科・総合内科クリニック

主な紹介先医療機関 青森県立中央病院、青森市民病院、青森厚生病院

当病院の現状（認定・指定の状況、主な患者像、地域の役割等）

- ・日本脳卒中学会 一次脳卒中センター(P S C)認定 ・日本脳卒中学会専門医研修教育施設
- ・日本形成外科学会認定施設(教育関連施設) ・日本整形外科学会専門医制度研修施設
- ・日本リハビリテーション医学会研修施設
- ・日本乳癌学会関連施設 ・日本内分泌外科学会専門医制度認定施設
- ・日本認知症学会教育施設 ・日本病院総合診療医学会認定施設

・救急告示病院として輪番制に参加し、二次救急医療機関として現在は救急車を約100件/月を受入れております。また、手術件数は、約160件/月を行い、そのうち約60件/月が全身麻酔を伴う手術となっており、その医療需要は増加傾向にあります。

・脳卒中や頭部外傷などの緊急を要する疾患に対して、緊急に対応できるよう体制を整備し、必要に応じてrt-PA静注療法、開頭手術及びカテーテルによる血管内手術などの緊急手術を行っています。

・胃がん、大腸がんなどの消化器悪性腫瘍をはじめ、様々な消化器疾患に対し腹腔鏡下手術を行っており、緊急手術にも対応しています。

・乳癌に対する診断、手術、再発予防から再発治療までの乳癌診療を行っています。日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会のインプラント・エキスパンダー実施施設の認定を受けており、形成外科との連携で乳房再建術にも取り組んでいます。

・がん治療には、高精度放射線治療装置を導入し、様々な部位への強度変調放射線治療や脳定位放射線治療などを行っており、手術や薬物療法との併用による集学的治療も行っています。

・地域の医療機関との密接な連携を目指しており、現在、約70施設の医療機関、介護施設等と協力医療機関・協力施設として提携し、病病・病診・病介連携に努めています。

・また、当院が保有する高機能診断装置、その他検査医療機器等を地域の医療機関の先生方に有効活用していただくよう取り組んでいます。

当病院の未来像（病床機能・病床数の見込み、施設への転換見込み、院舎建て替えの見込み、地域の役割等）

・青森地域保健医療圏では、人口減少するものの高齢化に伴い増加が見込まれる脳卒中、がん及び急性冠症候群などを中心に急性期医療を提供し、より高機能の体制構築を目指しています。

・救急医療では、特に夜間・休日等、公益性の高い救急医療の提供体制の充実と他の救急医療機関との連携強化を図り、三次救急医療機関の負担の軽減と地域の救急医療体制の構築に寄与したいと考えています。

・現時点では病床機能や病床数等の見直しは考えておりませんが、青森市西地区の二次救急医療機関として、各データを元に地域における医療の在り方、地域のニーズに合わせた転換も視野に入れながら、実情に応じた幅広い医療を担うことができるよう努めます。

在宅医療への取組状況（現状及び今後の展望）

<退院支援>

患者支援センターを設置し、専従の看護師及び社会福祉士等を配置し、入院前支援と退院支援・退院調整の機能をバランスよく提供できるよう努めています。各病棟に専任の社会福祉士等を配置し、入院早期から退院困難な要因を有する患者に対し、退院支援計画を作成し、患者及びご家族、主治医、担当看護師、セラピスト、その他必要に応じた職種と退院に向けた支援を行っています。

<訪問診療>

青森市内において、施設又は自宅療養を行っている患者に訪問診療を行っています。今後は在宅医療のニーズに合わせ、地域の在宅主治医、医療・介護の関係機関への紹介を含め連携強化し、在宅療養体制の充実を推進していく考えです。

<後方支援>

24時間365日救急医療体制を敷いており、在宅療養患者の容体急変時の受入れにも取り組んでいます。在宅医療を後方支援する体制を強化するために、地域の診療所や施設との連携を図っていきたいと考えています。

<看取り>

終末期にある患者の意思と権利を最大限に尊重し、地域の在宅主治医、医療・介護の関係機関との連携を強化し、終末期に相応しい最善の在宅療養体制の充実を推進していく考えです。

【病院プロフィールシート】

※ 赤字は前回内容からの修正部分

病院名 医療法人芙蓉会 芙蓉会病院

病床数(床)

令和5年度病床機能報告 現在 (R5.7.1)				将来 (R7.7.1)			
一般病床(A)	0	高度急性期(a)	0	一般病床(G)	0	高度急性期(g)	0
療養病床(B)	51	急性期(b)	0	療養病床(H)	51	急性期(h)	0
		回復期(c)	0			回復期(i)	0
		慢性期(d)	51			慢性期(j)	51
		休棟中	0			休棟予定(k)	0
		うち再開予定有(e)	0			(廃止予定)	0
		〃 無(f)	0			(介護保険施設等へ)	0
計(A+B)	51	計(a+b+c+d+e+f)	51	計(G+H)	51	計(g+h+i+j+k)	51

(病床機能報告の内容の考え方について)

令和5年度末での介護療養病床の廃止に伴い、当院は予定通り一年先んじて令和5年4月1日付にて介護療養病床37床を医療療養病床へ転換（療養病床総数は51床）した。

平均在院日数 一般：－ 日

病床利用率 一般：－％ 療養：92.7％

病床稼働率 一般：－％ 療養：92.7％

診療科 合計5科

(内科、精神科、心療内科、老年精神科、児童精神科)

主な紹介元医療機関 村上病院、県立中央病院、青森新都市病院

主な紹介先医療機関 村上病院、県立中央病院、あおもり協立病院

当病院の現状（認定・指定の状況、主な患者像、地域の役割等）

当院の療養病棟は開設以来医療・介護のミックス病棟で運営されてきました。高齢化が進むにつれ医療必要度も増していること、また、令和5年度末での介護療養病床の廃止に伴い、一年先んじて令和5年4月1日付にて介護療養病床37床を医療療養病床へ転換（療養病床総数は51床）しております。

療養病棟の他にも精神病棟が354床有り認知症患者の合併症についても療養病棟を構えることにより、スムーズに対応できます。

今後も、当院理念でもある「だれからも愛される病院を目指します」をスローガンに安心できる地域に必要とされる医療を提供してまいります。

当病院の未来像（病床機能・病床数の見込み、施設への転換見込み、院舎建て替えの見込み、地域の役割等）

引き続き身体合併症への対応機能の維持・拡充を図ります。

在宅医療への取組状況（現状及び今後の展望）

<退院支援>

専任の看護師とケアマネージャー、精神保健福祉士などが連携し、ご家族の希望に沿った退院計画を立てております。

<訪問診療>

実施しておりません。

<後方支援>

実施しておりません。

<看取り>

実施しておりません。

【病院プロフィールシート】

※ 赤字は前回内容からの修正部分

病院名 医療法人芙蓉会 村上病院

病床数(床)

令和5年度病床機能報告 現在 (R5.7.1)

一般病床(A)	82	高度急性期(a)	0
療養病床(B)	40	急性期(b)	0
		回復期(c)	122
		慢性期(d)	0
		休棟中	0
		うち再開予定有(e)	0
		〃 無(f)	0
計(A+B)	122	計(a+b+c+d+e+f)	122

将来 (R7.7.1)

一般病床(G)	82	高度急性期(g)	0
療養病床(H)	40	急性期(h)	0
		回復期(i)	122
		慢性期(j)	0
		休棟予定(k)	0
		(廃止予定)	0
		(介護保険施設等へ)	0
計(G+H)	122	計(g+h+i+j+k)	122

(病床機能報告の内容の考え方について)

- ・当院は一般病棟（急性期一般入院料5）と2病棟（一部 地域包括ケア入院医療管理料1）と療養病棟（回復期リハビリテーション病棟入院料1）をすべて回復期として報告しています。これは急性期からの受け入れ件数が月30件以上であることと、当院が救急告示病院ではないためです。
- ・当院は在宅支援病院の機能強化型を届け出ております。
- ・今後の構想としては現状体制の維持と地域連携を深め地域の在宅医療の後方支援の役割も担えるよう目指します。

平均在院日数 一般：19.6日

病床利用率 一般：82.4% 療養：91.0%

病床稼働率 一般：86.2% 療養：93.0%

診療科 合計13科

(内科、循環器内科、消化器内科、糖尿病内科、脳神経内科、心療内科、整形外科、血管外科、泌尿器科、精神科、皮膚科、放射線科、リハビリテーション科)

主な紹介元医療機関 青森県立中央病院、青森市民病院、**新都市病院**

主な紹介先医療機関 **芙蓉会病院**、青森県立中央病院、青森厚生病院

当病院の現状（認定・指定の状況、主な患者像、地域の役割等）

・当院は、整形外科の手術をはじめ、消化器内科の早期内視鏡手術、下肢静脈瘤のレーザー治療に対応しています。

基本急性期手術ではなく、亜急性期、慢性期手術です。

・訪問診療を実施しており、24時間対応の往診も可能な体制をとっています。

当病院の未来像（病床機能・病床数の見込み、施設への転換見込み、院舎建て替えの見込み、地域の役割等）

国の施策ならびに地域の構想を鑑みても、現在の当院の立ち位置からして現体制で維持していく予定です。

ただ、仮に変革があったとすれば、地域包括ケアと一般病棟の割合をより地域包括ケアのほうを増やしていく形が可能性としてあります。

在宅医療への取組状況（現状及び今後の展望）

<退院支援>

専任の看護師と社会福祉士などが連携し、ご家族の希望に添った退院計画を立て、的確な退院支援に取り組んでいます。

<訪問診療>

市内において自宅・施設入居者含め130名程度の患者に対し訪問診療を実施しています。

<後方支援>

現在は当院単独での在宅医療がメインであることから近隣の後方ベッドの役割も担いたいと考えます。

<看取り>

訪問診療の患者の看取り往診をはじめ、患者本人ならびに家族の意向によっては病院での看取りの対応もしています。

【病院プロフィールシート】

※ 赤字は前回内容からの修正部分

病院名 村上新町病院

病床数(床)

令和5年度病床機能報告 現在 (R5.7.1)				将来 (R7.7.1)			
一般病床(A)	46	高度急性期(a)	0	一般病床(G)	46	高度急性期(g)	0
療養病床(B)	32	急性期(b)	46	療養病床(H)	32	急性期(h)	46
		回復期(c)	32			回復期(i)	32
		慢性期(d)	0			慢性期(j)	0
		休棟中	0			休棟予定(k)	0
		うち再開予定有(e)	0			(廃止予定)	0
		〃 無(f)	0			(介護保険施設等へ)	0
計(A+B)	78	計(a+b+c+d+e+f)	78	計(G+H)	78	計(g+h+i+j+k)	78

(病床機能報告の内容の考え方について)

- ・当院は、現在、急性期一般入院料2（10対1）と療養病棟入院料1（うち16床は地域包括ケア入院医療管理料2）の届出を行っております。
- ・救急告示病院として、年間120件程度の救急車の受け入れ、また救急車以外の夜間・休日の救急患者は年間450件程度受け入れしております。
- ・手術については、血管外科手術が年間100件程度、整形外科手術が20件、その他ペースメーカーの移植・交換術等を行っております。
- ・将来的にも現状と変わらぬ病床の配置で、急性期から回復期の機能を担い、在宅復帰の支援を行っていく予定です。

平均在院日数 一般：19.9日

病床利用率 一般：93.1% 療養：94.6%

病床稼働率 一般：97.7% 療養：95.6%

診療科 合計16科

(内科、小児科、循環器内科、呼吸器内科、腎臓内科、消化器内科、神経内科、外科、心臓血管外科、血管外科、整形外科、肛門外科、皮膚科、耳鼻咽喉科、放射線科、リハビリテーション科)

主な紹介元医療機関 成田祥耕クリニック、青森クリニック、南内科循環器科医院

主な紹介先医療機関 青森県立中央病院、青森市民病院、弘前大学医学部附属病院

当病院の現状（認定・指定の状況、主な患者像、地域の役割等）

- ・内科を中心に16の診療科目を標榜しておりますが、特に循環器内科と腎臓内科に力を入れており、連携医療機関より多数の患者を紹介して頂いております。
- ・日本透析医学会より、弘前大学医学部附属病院の教育関連施設として認定を受けております。
- ・全日本病院協会からは、災害時医療支援活動指定病院の指定を受けております。
- ・血液透析は全台でオンラインCHDFが可能となっております。
- ・血液透析以外にも自己免疫疾患や肝不全などに対し、血漿交換なども行っております。
- ・超急性期の脳梗塞に対してrt - PA静注療法を行っております。
- ・320列CT及び3.0テスラMRIを導入しており、冠動脈疾患や脳卒中などを24時間迅速に診断することができます。
- ・この地で開業して40年が経ちますが、この地域は青森市内においても高齢化率の高い地域であり、古くから市場や商店を営んできた方々や住民の皆さんのかかりつけ医となっております。また、そうした方々が在宅医療を継続していけるよう支援しております。
- ・**新型コロナの5類移行後も感染対策を行いながら発熱外来の対応を行っております。**
- ・**新型コロナに感染した透析患者の隔離透析を行っております。また他院で治療困難な新型コロナの患者の受入もしております。**

当病院の未来像（病床機能・病床数の見込み、施設への転換見込み、院舎建て替えの見込み、地域の役割等）

- ・病院の老朽化に伴い、駅前に新病院の建替えを計画しております。
- ・現在の機能を継続しながら、地域包括ケアシステムの更なる強化のため、介護保険施設を併設した複合施設を予定しております。
- ・青森市とも協力しあい、中心市街における医療・介護連携の拠点となる施設を整備する予定です。
- ・これにより、医療・介護の切れ目のないサービスを提供でき、患者及び家族にとって安全・安心をもたらすことができると考えております。

在宅医療への取組状況（現状及び今後の展望）

<退院支援>

病棟・外来看護師、社会福祉士、リハビリスタッフなどの多職種が連携し、ご本人、ご家族の希望に沿った退院支援計画を立て、早期に在宅復帰が出来るよう取り組んでおります。

<訪問診療>

青森市内において、介護施設1施設（29人）、自宅7世帯に対して訪問診療を行っております。

<後方支援>

地域のクリニックと連携をとりながら、精密検査や入院加療が必要な患者の受け入れを行っております。また、緊急時においてもスムーズに受診ができるよう、24時間受け入れ体制を整えております。

<看取り>

ご家族の要望にあわせ、訪問看護師や介護支援専門員、多職種と連携をとりながら対応しております。**昨年度は13名の看取りを行いました。**

【病院プロフィールシート】

※ 赤字は前回内容からの修正部分

病院名 医療法人 同仁会 浪打病院

病床数(床)

令和5年度病床機能報告 現在 (R5.7.1)				将来 (R7.7.1)			
一般病床(A)	37	高度急性期(a)	0	一般病床(G)	37	高度急性期(g)	0
療養病床(B)	32	急性期(b)	0	療養病床(H)	32	急性期(h)	0
		回復期(c)	37			回復期(i)	37
		慢性期(d)	32			慢性期(j)	32
		休棟中	0			休棟予定(k)	0
		うち再開予定有(e)	0			(廃止予定)	0
		〃 無(f)	0			(介護保険施設等へ)	0
計(A+B)	69	計(a+b+c+d+e+f)	69	計(G+H)	69	計(g+h+i+j+k)	69

(病床機能報告の内容の考え方について)

当院は、一般病棟、及び療養病棟1を報告しています。
 R3年7月より療養病床をコロナ病床として使用しています。
 将来的には回復期への転換を予定しています。

平均在院日数 一般：35.7日

病床利用率 一般：76.3% 療養：7.4%

病床稼働率 一般：77.7% 療養：8.5%

診療科 合計5科

(内科、外科、呼吸器科、整形外科、リハビリテーション科)

主な紹介元医療機関 県立中央病院、クリニック、協立病院

主な紹介先医療機関 県立中央病院、有料老人ホーム、グループホーム

当病院の現状（認定・指定の状況、主な患者像、地域の役割等）

当院は、緩和ケアの患者様、ターミナルの高齢患者様等、慢性期の患者様、大腿骨パズや、リハビリ目的の患者様で構成されております。

創設以来、地域の患者様の診療に力を入れてまいりました、今後も地域に貢献できるよう運営して参ります。

当病院の未来像（病床機能・病床数の見込み、施設への転換見込み、院舎建て替えの見込み、地域の役割等）

総病床数が69床と少なく今後も有効に活用していきたいと思っております。

今のところ、建て替えや施設への転換は考えておりません。

在宅医療への取組状況（現状及び今後の展望）

<退院支援>

なるべく在宅への支援をするようにしております。

<訪問診療>

現在はしておりません。

<後方支援>

現在はしておりません。

<看取り>

現在はしておりません。

【病院プロフィールシート】

※ 赤字は前回内容からの修正部分

病院名 あおもり協立病院

病床数(床)

令和5年度病床機能報告 現在 (R5.10.1)				将来 (R7.7.1)			
一般病床(A)	135	高度急性期(a)	0	一般病床(G)	135	高度急性期(g)	0
療養病床(B)	88	急性期(b)	135	療養病床(H)	88	急性期(h)	135
		回復期(c)	88			回復期(i)	88
		慢性期(d)	0			慢性期(j)	0
		休棟中	0			休棟予定(k)	0
		うち再開予定有(e)	0			(廃止予定)	0
		〃 無(f)	0			(介護保険施設等へ)	0
計(A+B)	223	計(a+b+c+d+e+f)	223	計(G+H)	223	計(g+h+i+j+k)	223

(病床機能報告の内容の考え方について)

・当院は、呼吸器疾患、脳血管疾患、消化器・循環器疾患等を主対象として、救急告示病院、2次輪番制担当病院としての役割を担うために全5病棟のうち3病棟を急性期病棟（急性期一般入院料4）としており、急性期治療後の脳血管疾患や大腿骨骨折等のリハビリを目的として2病棟を回復期リハビリテーション病棟（入院料1）とし、ケアミックス型病床として地域の医療要求に対応しています。

・2025年も当院が担う医療機能に変更がないものと想定し、報告しております。

・新型コロナウイルス感染症に係る重点医療機関として一般病棟に即応病床・休止病床を確保し対応を行いました。2023年4月の26床から5月8日以降感染フェーズに応じて逡減し、10月現在は2床確保しています。

平均在院日数 一般：17.54日

病床利用率 一般：73.2% 療養：93.1%

病床稼働率 一般：76.3% 療養：94.7%

診療科 合計10科

(内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、神経内科、緩和医療内科、精神科、リウマチ科、リハビリテーション科、放射線科)

主な紹介元医療機関 青森県立中央病院、青森市民病院、白取医院

主な紹介先医療機関 青森県立中央病院、青森市民病院、青森新都市病院

当病院の現状（認定・指定の状況、主な患者像、地域の役割等）

〔主な認定・指定施設等〕

- ・日本循環器学会循環器専門医研修関連施設認定 ・日本消化器内視鏡学会指導連携施設認定
- ・日本リハビリテーション医学会研修施設 ・日本神経学会認定施設
- ・青森県立中央病院内科専門研修プログラム連携施設
- ・当院では肺炎や脳血管疾患、骨関節疾患等の高齢者診療に総合的に取り組むと共に、循環器や消化器、リハビリ等の領域においては上記の施設認定をとって質の向上と専門性を追求しています。また、心身両面のケアに対応するため、精神科医と協働した医療チームを形成しています。
- ・循環器領域では急性心筋梗塞や急性心不全に対応した心臓カテーテル検査や経皮的冠動脈形成術、ペースメーカー植え込み術を実施しています。また、経皮的下肢抹消血管拡張術等にも積極的に取り組んでいます。
- ・消化器領域においては緊急止血術や早期胃がんの粘膜剥離術、胆管結石に対しての乳頭切開術、悪性疾患に対するステント留置術等、内視鏡治療に積極的に取り組んでいます。また、肝細胞癌に対しての冠動脈塞栓術やラジオ波焼灼療法も実施しています。
- ・救急告示病院として青森市内2次輪番制に参加し、月90件程度の救急車搬入を受け入れて当圏域の救急医療提供体制に寄与しています。循環器、消化器領域においては重傷者にも対応しております。青森県立中央病院、青森市民病院と回復期病院とで行われている脳卒中・大腿骨頸部骨折連携バスの回復期病院として積極的にその役割を担っており、急性期病棟と共に回復期病棟の役割は必要と考えます。
- ・当院は入院医療にほぼ特化しており、外来部門は隣接のクリニックが担当しています。当院は同クリニックの後方支援病院として、在宅後方支援病院を検討してきましたが、在宅患者の疾患が同施設基準の疾患とは合致しておらず申請しておりません。

当病院の未来像（病床機能・病床数の見込み、施設への転換見込み、院舎建て替えの見込み、地域の役割等）

- ・内科一般疾患への対応や救急医療等、当院が当圏域で果たしている役割の観点から現時点では病床機能や病床数の見直しについては念頭にありませんが、今後、地域の医療ニーズや当圏域での医療提供体制の変化に応じて、検討していく必要があると考えます。

在宅医療への取組状況（現状及び今後の展望）

<退院支援>

退院支援看護師と専任の社会福祉士、介護支援専門員等が連携し、患者、家族の希望に沿った退院計画を立案し退院支援に取り組んでいます。

<訪問診療>

病院と併設した協立クリニックでは、在宅医療管理患者数は約400名、年間の在宅看取りは2018年度117件、2019年度123件、2020年度124件、2021年度152件、2022年度138件（うち悪性疾患43件）と増加傾向にあり、当院・クリニックで協力して、患者・ご家族に寄り添いながら訪問看護ステーションと連携して地域に密着した医療を提供しています。

<後方支援>

併設した協立クリニックが訪問診療している患者の他に、当法人の他のクリニックが担当する在宅患者、介護施設入所者への急変時対応とともに、在宅診療を継続させるためのレスパイト入院にも適宜対応しています。

<看取り>

看取り件数は増加傾向にあります。患者・ご家族に寄り添いながら対応を継続していきたいと考えています。

【病院プロフィールシート】

※ 赤字は前回内容からの修正部分

病院名 社会福祉法人敬仁会 青森敬仁会病院

病床数(床)

令和5年度病床機能報告 現在 (R5.7.1)				将来 (R7.7.1)			
一般病床(A)	0	高度急性期(a)	0	一般病床(G)	0	高度急性期(g)	0
療養病床(B)	120	急性期(b)	0	療養病床(H)	120	急性期(h)	0
		回復期(c)	60			回復期(i)	60
		慢性期(d)	60			慢性期(j)	60
		休棟中	0			休棟予定(k)	0
		うち再開予定有(e)	0			(廃止予定)	0
		〃 無(f)	0			(介護保険施設等へ)	0
計(A+B)	120	計(a+b+c+d+e+f)	120	計(G+H)	120	計(g+h+i+j+k)	120

(病床機能報告の内容の考え方について)

当院は、病床機能報告において回復期リハビリテーション病棟（60床）を回復期、療養病棟（60床）を慢性期として報告しております。

平均在院日数 一般：－ 日

病床利用率 一般：－％ 療養：95.7％

病床稼働率 一般：－％ 療養：96.6％

診療科 合計3科

(内科、リハビリテーション科、**整形外科**)

主な紹介元医療機関 青森県立中央病院、むつ総合病院、青森市民病院

主な紹介先医療機関 青森県立中央病院、むつ総合病院、石木医院

当病院の現状（認定・指定の状況、主な患者像、地域の役割等）

・当院の回復期リハビリテーション病棟は、入院基本料4を算定しており、青森地域の脳卒中連携パスや大腿骨骨折連携パスにも参画しております。リハビリテーションスタッフは約35名、脳卒中や大腿骨頸部骨折の他、廃用症候群や整形疾患の術後のリハビリテーションを提供しております。また、嚥下・摂食訓練に関しては4名の言語聴覚士により、経管栄養から経口による栄養摂取へ移行できるように積極的に取り組んでおります。

さらに、むつ下北圏域や上十三圏域の患者のリハビリテーションニーズに対応するべく、むつ総合病院や公立野辺地病院、十和田市立中央病院とも連携し、積極的に患者の受け入れを行い、また地域へ戻る為の円滑な退院支援にも取り組んでおります。

・療養病棟においては、慢性的な脳血管疾患、循環器・呼吸器疾患により医療依存度の高い患者へのターミナルケアの提供や、地域からの慢性疾患増悪の患者の受け入れ、また、一時的にリハビリテーションが必要になった患者の受け入れを行っています。

当病院の未来像（病床機能・病床数の見込み、施設への転換見込み、院舎建て替えの見込み、地域の役割等）

・現在、病床機能報告では回復期60床、慢性期60床、合計120床で報告しており、現時点で病床機能・病床規模の見直しは考えておりません。

在宅医療への取組状況（現状及び今後の展望）

<退院支援>

MSW3名、全患者担当制。患者本人や家族と相談し、各地域担当と密に連携を図り支援しています。

<訪問診療>

行っていません。

<後方支援>

地域の開業医や入所施設とも連携し、円滑な受診や入院の受け入れの対応をしています。

<看取り>

希望時や必要時は入院での対応をしています。